

平成31年1月期「ふらっと」会議

報告内容

- ・10月期会議後の推進協議会にて市担当者との意見交換にて
個人スキルの向上研修(今年の摂食嚥下研修会)は、「顔の見える化」として事業対象内にて継続可能
- ・多職種合同意見交換会(認知症事例を踏まえて)を1月31日18:30~商工センター定員100名
事例を踏まえ、どの職種がどのように関われるのか?関わるのか?時期や職域等共通認識として共有。

議題

I 宿題：医療介護連携を踏まえての研修お題について

- 1) 入院時情報提供書・退院(退所)時情報記録書について (鳥塚委員) ⇒研修①相当
医療用語多く、現場介護職に伝わっていない?確認していく機会に:言語共有
- 2) 介護保険を知る (本木委員) ⇒研修①相当
生活介護、身体介護、出来ること、出来ないこと(法制)を知っていただきたい
医療行為に当たらないことを知りたい
- 3) 医療・介護連携を踏まえて、各事業所の紹介 (澤田委員) ⇒研修②相当
各職種の役割、仕事内容、利用者の流れ
- 4) 切れ目のない医療・介護サービス (島田委員) ⇒研修②相当
各業種がどのようなサービス提供するのか各業種が把握する
- 5) 多職種が共に地域課題を解決していくグループワーク (古田委員) ⇒研修②相当
各職種の役割や得意分野、考え方を多職種に伝え互いに学び合う

II 研修会(個人スキルの向上)を開催してきたの反省

現場介護職種の参加が低迷。事業所への連絡や伝達に問題はないことは評価済。

どうして低迷しているのか?(興味がない、大切とは思っていない、就業で精一杯)

どのようにしたら参加が期待できるのであろうか?

- ・事業所紹介となれば参加してくるのではないかと?(澤田委員)
- ・知識欲の向上⇒行田市認定〇〇制度を策定し、参加回数増に結び付けていく(島田委員)
- ・参加意義向上⇒行田市認定〇〇協力施設指定を策定し、参加回数増で事業所指定(島田委員)

III 研修会の内容と回数

- ①多職種が連携するための研修(多職種が連携するために)
- ②医療・介護職が相互理解するための研修(医介それぞれの思想や文化、とらえ方など相互理解)
- ③多職種の顔の見える関係構築(個人スキル向上も含む顔見知りの機会構築)

次年度は?

- ・①②が1研修 ③が1研修 計2回研修 +多職種合同意見交換会(市独自研修)
- ・①②が2研修 ③が1研修 計3回研修 +多職種合同意見交換会(市独自研修)

③多職種の顔の見える関係構築についてお題提示がありました (笠原委員)

(1) 摂食嚥下研修

理由:地域の共通目標は「最後までお口で美味しく食べること」を支援する。

(2) 認知症支援研修

理由:認知症であっても地域で「自分らしく生きること」を支援する。

(3) 看取りについて

理由:「在宅で最期を迎えたい」という一人ひとりの希望に寄り添った支援を考える。